

スピーキング能力を高める中学校段階のシラバス(2)

－評価問題作成時の留意点－

千菊 基司

スピーキング能力の伸長を図ったシラバスを構成する活動例を示すために、中学校前半段階向けの活動を取りあげ、指導の際の留意点を述べる。評価の観点は、形成的評価の側面を持たせるためにも複数必要だと考え、コミュニケーション能力を構成すると考えられている要素のうち、複数のものを含めるように作成した。ただし、生徒の習熟の実態に応じて、中学校段階を通じて、必要な内容を繰り返し指導することが必要であることに留意したい。

1. はじめに

拙論「スピーキング能力を高める中学校段階のシラバス(1)」において、2年次終了時点で当校の目標としている3級取得のためには、「言語の使用場面」から見ると、生徒の身近な暮らしにかかわる場面においては、自由時間・娯楽、旅行、食べ物について話す場면을体験させ、「言語の働き」からみると、情報を伝えるもののうち、描写する表現、そして自分の意志を示すものうち、好みを述べる表現と計画を述べる表現に特に習熟させる必要があると述べた。しかし、英検の面接試験で要求される言語の機能は、非常に限定されたもので、その面接試験だけに能力伸長の度合いの測定を求めるのは無理があることも同時に述べた。

新学習指導要領の「話すこと」の言語活動においては、以下の指導事項が示されている。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりすること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
- (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

本小論では、スピーキング能力の伸長を図ったシラバスを構成する2年生向けの活動を取りあげ、評価の観点を概観し、指導時の留意点を考察する。ただし、これらの活動は、解説にもあるように、学年ごとに区切るものではなく、生徒の習熟の実態に応じて、必要な内容を繰り返し指導することが必要である。スピーキング能力が、あたかも直線的に成長するのではないことを留意して読んでいただくと幸いである。

2. 中学校前半の活動とその評価の考え方

前節で、「話すこと」の言語活動(ア)～(オ)を紹介し

たが、最初の4つについて順に、実際の2年生を対象とした指導の際の留意点を述べる。また評価の観点は、形成的評価の側面を持たせるためにも複数必要だと考えたが、コミュニケーション能力を構成する4つの要素を2つ以上含めるように構成した。4つの要素とは、文法能力(以下文法)・社会言語能力(以下社会)・談話能力(以下談話)・方略能力(以下方略)である。

①「強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音する」活動
教科書を音読したり、暗唱する活動で、これらの能力の伸長を見ることが可能であろう。

評価の観点は<1>正確な表現形式(文法)と<2>適切な発話速度(社会)が必要で、<3>意味を損なわない表現の入れ替え(談話・方略)が見られる場合に肯定的に評価すれば、自分の言葉で話すことに興味を持たせられる。

②「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝える」活動

絵の描写をさせたり、日記のような題目を与えて、決められた時間、ペアで話をさせる活動がふさわしい。「書き出し」を黒板に示し、続きを話させる。

- ・ I am going to talk about one of my family members.
- ・ I'm going to do ~ in this winter vacation.
- ・ When I am free, ...
- ・ My favorite sport to watch is ...
- ・ One day in October, I ...
- ・ I was surprised at ...

評価の観点は<1>適切な情報構造(談話)、<2>情報量(社会)、<3>アイコンタクト・声量(社会)、<4>正確さ(発音・語彙・文法)(文法)が必要。まとまった量の情報を解答させる場合、<1>は重要で、事実の伝達や描写であれば、場面設定を最初に持つてくるよう指導したい。考えや気持ちの表出であれば、自分の立場を最初に述べさせる必要があろう。また、代名詞の用法の

適切さも評価の規準に含め、女性を見ていきなり She is ～と描写する英語は避けるよう指導したい。

③「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりする」活動

聞く活動と読む活動を、話す活動と結びつけることで、実際の言語使用の場面に近づけることができる。例えば、教科書の題材中の登場人物のしたことについて、場面における適切さを評価させ、必要ならその人物への助言を英語で表現させる。また、英語で行う Qs and As の活動時には、本文の英語を平易に言い換えるなど工夫して、表現の意欲を引き出したい。

言語的なインプットを最小限に抑え、絵を見せて、アウトプット活動を刺激するのも一案であろう。絵で表現されているシーンにおいて、登場人物が次にどうするか、あるいはなぜそうしたか、等を考えさせるのがよいであろう。言語的なインプットを減らして即興的に表現させるのも、中学生段階の評価問題としては、生徒の言語的負担が軽く、取り組みやすいのではないだろうか。

また、「問答する」前段階として、相手の話した内容について、質問しないといけないような設定を持ったテストを実施するとよい。

評価の観点は②と共通で実施できる。

④「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続ける」活動

話を続けるための工夫としては、以下のような行為が考えられる：<A>定型表現を用い、相づちを打つ 相手の表現の一部を繰り返す <C>会話を発展させるため、質問する <D>相手の述べたことに対してコメントする。これらを使いこなすことは、適切さ(社会)を加えるために重要な役割を持っている。また、<E>わからない表現があった時に、身振りなどを加え、何とか話を継続する、のは、方略能力の利用である。

この練習のために、かなり人工的ではあるが、相手が述べたことに対し、必ず「繰り返す」、あるいは、相手が何か述べたら、内容に応じて表現を使い分け「相づちを打つ」ことで興味関心を示す。定型表現の例として、"I can't believe it." "That's great." "Good luck." "Have fun." "That's too bad." "I think so, too." "I ~, too." が2年生段階でも十分利用可能である。

方略能力の伸長のためには、例えば、身近な単語を忘れたと設定して、クイズのように相手に説明し、英単語を相手に言わせるような活動が考えられる。

これらの活動を組み合わせ、スピーキング活動における、聞き手の役割の重要性も意識させることができる。

評価の観点は、<1>反応の内容の適切さ(文法)(談話)、<2>適切な間(社会)、<3>アイコンタクト・声量(社会)が必要。他にも、反応のバリエーションの多様さも、親密さを現すので、留意して評価したい。

3. 中学校後半への課題

英検準2級で要求される内容には、行動の理由の説明や自分の意見の表明に取り組みせる必要が出てくる。高校段階では、評論文を読んだり聞いたりして、意見を述べる活動もある。そのような活動につなげるためにも、『学習指導要領』[言語の働きの例]の、「考えや意図を伝える」表現や、「相手の行動を促す」表現の習熟が必要になるところである。これらの活動も、中学校前半の教材で扱われており、学ぶことができる。

4. おわりに

ある学会が企画した討論会で、スピーキングテストを開発した先生が企画した研修会に、出席者がほとんど集まらないことがあったと聞いた。スピーキングテストの不人気さは何に起因するのであるか。スピーキングテストは、準備するのは非常に労力が必要であるし、授業中に実施する場合、一人一人と話している間に、他の生徒をどうするか、という現実的な問題も無視するわけにはいかない。拙論における実践でも、学期に2回テストを実施するのが精一杯であった。

しかし、練習時やテストの中で、英語を使ってコミュニケーションができたことで、達成感を得て、学習への意欲を掻き立てられたと話してくれる生徒もおり、元気付けられた。今後は、実施の労力を軽減するために、評価ツールを整備し、また、活動を経験した生徒の声を集約し、生徒の動機付けを高めるような活動になるよう改訂を加えていきたい。

参考文献

- 今井裕之・吉田達弘編著. 2007. 『HOPE 中高生のための英語スピーキングテスト』. 教育出版.
- 榎葉みつ子. 2008. 『英語で伝え合う力を鍛える！ 1分間チャット&スピーチ・ミニディベート28』. 明治図書.
- 田中武夫. 2008. スピーキング指導における評価について. *TEACHING ENGLISH NOW (Vol. 13)*. pp.10-11.
- 道面和枝. 2009. 『中2で楽しく会話が続く！「2分間チャット」指導の基礎・基本』. 明治図書.
- 文部科学省. 2008. 『中学校学習指導要領解説 外国語編』.
- 『Talk and Talk Book 2』 正進社

(資料1)

2010年度1学期の授業における「話すこと」活動のうち、評価ツールに直接関係のある活動

(1)「リアクション・ゲーム」(5月実施)

1. 目標:相手のセリフに言葉を返すことができる。

2. 手順:

①ペアの一人(サンプル中のA)が台本を読み上げ、相手(サンプル中のB)が、<1>聞いたセリフを疑問文にして返したり、<2>主語を変えて肯定文で返したり、<3>定型表現で感想を述べる。

②教師-生徒でモデルを示し、複数の生徒を指名して活動の内容を確認し、その後、生徒間のペアワークで練習させる。③スピーキングテストを実施する。

3. 指導上の留意点

①ダイアログをたくさん作るのは大変である。

筆者の場合、初日は10個程度示すのが限界であったが、サンプルを見せた後、生徒に作成を依頼したところ、使えるアイデアがたくさんあった。

②リアクションの内容に応じて、声量・トーンを工夫するよう、配慮させたい。

3. ダイアログのサンプル

あ A: I'm hungry

B:

A: I didn't have breakfast.

B:

A: Actually, I don't usually eat breakfast.

B: That's too bad. / I can't believe it.

い A: I like baseball.

B:

A: I like playing it.

B:

A: And I like watching it, too.

B: I like it, too.

う A: My cousin is a high school student.

B:

A: He lives in Tokyo.

B:

A: I'll visit him this summer.

B: Have fun!

え A: I'm from Kyoto.

B:

A: I lived there for 10 years.

B:

A: I came to Fukuyama two years ago.

B: I didn't know that.

お A: I went shopping yesterday.

B:

A: My mother likes shopping, too.

B:

A: I bought a T-shirt.

(2)「絵の描写」(7月実施)

1. 目標:絵の描写を通じて、動作の描写、行動の予想の描写ができる。

情報の構造を意識して説明ができる。

2. 手順:

①絵を見せて、その内容について英語で制限時間内に述べる。

②絵に関連した話題(生徒の生活に身近な内容)についての質問に、英語で答える。

3. 指導上の留意点:

①全体に関わる情報をまず述べ、その後細かい情報の描写に進むことを原則とする。

②説明を聞く相手は、この絵を初めて見る設定とするため、代名詞の利用には注意させる。

③絵の中に登場する人物の人間関係について述べる必要は無いが、述べるとしたらあくまで推測であると断りを入れる必要がある。

④活動に慣れるまでは、状況設定について日本語でメモを書かせ、ペアで相談する時間を設けると、何を言えばいいかわからないので言えない、という状況を避けることができる。

4. サンプル練習問題



Step 1 状況説明(日本語メモ)

居間に女性が居て、その娘二人が読書している。

Step 2 上のメモのうち、言えることを英語にしよう!

例) A girl is sitting on the floor. She is reading.

Her mother is going to open the window of the room.

(3) リアクションゲーム2 (11月実施)

1. 目標：(5月実施の活動の目標に加え)相手の話の内容に英語で質問し、対話を継続・発展させることができる。
2. 手順：(5月実施の活動と同じ)
3. 指導上の留意点：
 - ①時間制限は1分とした。
 - ②最初は質問をするのが難しいかもしれないが、相手の言った言葉を利用すればいいことに気づかせ、促したい。

(4) 日記で会話 (11月実施)

1. 目標：与えられたテーマについて、簡潔に話し、その内容に関連した質問に答え、積極的に会話を継続することができる。
2. 手順：与えられたテーマについて、ペアの一人(A)が1分間話し、もう一人(B)は相づちをうつ。次の1分間は、生徒Bが生徒Aに質問し、会話を発展させる。
3. サンプルトピックは、本文2②の他に、以下のトピックについて日記で書かせたりした。

あ. I was surprised at ... / to ... / when ...

い. (私の家族)

う. This weekend, I want to ~

え. I was happy to ... / when ...

お. I will try to ~ by the end of this March.

(5) 日記の交換 (1月実施)

1. 目標：日本の冬休みに関連して経験したことがらについて、日本文化についてあまり知らないALTにその様子を理解してもらえよう説明ができる。
2. 手順：
 - ①宿題で毎月書く日記4編のうち、一つを選んで、書き直す。
 - ②ペアで日記を交換して読み、内容について質問し、また、題材について会話を発展させる。
3. 指導上の留意点

情報の構成・内容の精選にとどまらず、どのような例をあげれば日本的な事物についてのALTの理解を促進することができるかペアで話し合わせる。

(資料2)スピーキングテスト実施要項

第1回テスト Speaking Test Procedures (For teachers)

2009.6.

1 Skills to be focused

Students should be able to repeat what the partner says by repeating his statement and to give comments in order to maintain the conversation.

2 Test Procedures

- ① Students (examinees) gives the teacher (examiner) their score sheet.
- ② The conversation begins when the examinee says, "Hi, how are you?" and the examiner will react to their greeting.
- ③ The examinee says, "What's new?" and 'the test conversation' follows.
- ④ After the examinee says his or her comment on the last statement, the examiner ends the conversation by saying "OK, see you later."
- ⑤ The examinee leaves, and the examiner keeps their score sheet after marking it.

3 Notes:

- ① Two students (except the examinee in test) are waiting in line to save time.
- ② Students are supposed to keep appropriate distance for face-to-face conversation, but there might be cases where teachers have to show it.
- ③ Students are also supposed to keep eye-contact during the test, but it may be difficult for some students due to the different cultural background or age problems.
- ④ They are not familiar with the expression "What's new," so the examiner will have to begin the conversation if they fail to use it.

4 Scoring Criteria

- | | |
|--------------------------------|--|
| ① Reaction by giving questions | 2 points if the examinee successfully repeat <u>both</u> statements.
1 point if the examinee successfully repeat one of them. |
| ② Suitable comment | 2 points if the examinee successfully give <u>appropriate</u> comment.
1 point if the examinee gives some comment. |
| ③ Eye contact / Volume | 1 point for <u>good</u> eye contact, 1 point for <u>good</u> volume of voice |

第2回テスト

2009.7.

1 Skills to be focused

Students should be able to describe the situation and behavior that they see in the picture and have a short conversation regarding the everyday topic about the picture by answering the question given by the examiner.

2 Test Procedures

- ① Students (examinee) gives the teacher (examiner) their score sheet.
- ② Examinees see the picture before the speaking test begins while they wait for their turn
- ③ The conversation begins when the examinee starts describing the given picture.
- ④ Then the examiner gives a question and the examinee answers
- ⑤ TIME LIMIT One minute and a half ⇒ A minute for description, and the rest is for Q and A.

3 Notes: (第1回テストに同じ)

4 Scoring Criteria

- ① Picture Description Information structure 1 or 0. Content in detail 4 to 0.
☆ Appropriate selection of verbs, pronoun use and tense are to be focused.
- ② Suitable reaction to the question 2 to 0
- ③ Eye contact 1 or 0.
- ④ Pronunciation and Intonation 2 to 0.

☆ Samples of "Questions"

- Do you have a dog? If "No", do you like other animals? If "Yes", how old is your dog?
- Do you like reading books? If "Yes", what kind of books do you like to read?
If "No", what do you often do in your free time?
- Do you like going to a fast food restaurant?
If "yes", "Do you often go there?" or "Which fast food restaurant do you like?"
If "no", "Do you like hamburgers?"
- Do you like to go swimming?
If "yes", "Do you like to swim in the sea or in the swimming pool?"
If "no", "What kind of sports do you like to do in summer?"
- Do you like to go outside with your family?
If "yes", "where do you like to go?" "What do you usually do there?"
If "no", "What do you like to do with your family?"

第3回テスト

2009.11.

1 Skills to be focused

Students should be able to show their interest in the topic of the conversation by saying short comments or repeating the statements and by asking a question relevant to the topic to further maintain the conversation.

2 Test Procedures (第1回テストに加える部分のみ記載)

- ② The conversation begins.
(3) The examinee repeats the statement or gives some comments on the statements during the conversation. After the examinee asks a question at the end of the conversation, the examiner answers it and ends the conversation by saying "OK, see you later."

4 Scoring Criteria

- ① Reaction by repetition and giving comments
2 points if the examinee do such behavior more than twice. 1 point if the examinee do only once.
- ② Relevant question 2 points if the question has something to do with the conversation.
1 point if the question has little relation with the conversation.
- ③ Eye contact / Volume 1 point for good eye contact, 1 point for good volume of voice

第4回テスト

2009.12.

1 Skills to focused

Students should be able to draw the interviewer's interest in the given topic by providing an oral passage of 40 to 60 seconds and to maintain or develop it by answering his questions relevant to the topic.

2 Test Procedures

- ① The interviewer casts a dice and decide the topic from "what you're surprised at", "one of my family members" or "what you want to do in the winter vacation".
- ② The conversation should be over in 2 minutes.
 - (1) The examinee provides their passage according to the dice cast by the examiner.
 - (2) The examiner stops the speech when 60 seconds have passed
 - (3) The examiner asks a question (or two) regarding the topic or the passage.
- ③ The examinee leaves, and the examiner keeps their score sheet after marking it.

3 Notes:

- ① Two students (except the examinee in test) are waiting in line to save time.
- ② Students are supposed to keep appropriate distance for face-to-face conversation, but there might be cases where teachers have to show it.
- ③ Students are also supposed to keep eye-contact during the test, but it may be difficult for some students due to the different cultural background or age problems.
- ④ Please wait 10 to 15 second silence in the middle of their speech.

4 Scoring Criteria

- ① Speech 2 points if the examinee provides an understandable passage.
 1 point if the examinee said something but the content is not sufficient enough to support a topic.
- ② Qs and As 2 points if you successfully end the Qs and As session within the time.
 1 point if the examinee answered something but not good enough.
- ③ Eye contact / Volume 1 point for good eye contact, 1 point for good volume of voice

第5回テスト

2010.2.

1 Skills to be focused

Student should be able to explain things Japanese they typically experience during their winter holidays by relating the things to the examiner's familiar counterparts. Also, with some variations prepared in advance, they should be able to select the proper one according to the examiner's cultural literacy. Their strategic competence should be evaluated.

2 Test Procedures

The students talk about one day that they had in their winter holidays according to the dice. The topics are *hatsumode*, *osechi*, *fukubukuro*, or *otoshidama*. They have to explain things Japanese, or Japanese New Year Holiday tradition.

3 Scoring Criteria (①・③は第4回テストに同じ)

- ① Speech 2 points if the examinee provides an understandable passage.
 1 point if the examinee said something but the content is not sufficient enough to support a topic.
- ② Explanation
 2 points if the examinee provides a proper example derived from the examiner's cultural literacy
 1 point if the examinee provides an understandable explanation, but of false (strictly speaking) attempt.
- ③ Qs and As 2 points if you successfully end the Qs and As session within the time.
 1 point if the examinee answered something but not good enough.
- ④ Eye contact / Volume 1 point for good eye contact, 1 point for good volume of voice